MRI 三菱総合研究所

NEWS RELEASE

2026 年 11 月 24 日
株式会社三菱総合研究所

サプライチェーン途絶に備え、AI で「見えない上流」を推定・可視化

対象製品の供給網を推定し、平時のリスク把握と有事の影響評価につなげる技術を開発・実証

株式会社三菱総合研究所（代表取締役 社長執行役員：籔田健二、以下 MRI）は、従来は把握が難しかった 2 次取引先以降の供給網を、公開情報や外部データと AI を活用して製品単位で推定・可視化する技術を開発し、実証を行いました。
本技術は、企業間で取引される品目と対象製品との関連性を AI で推定することで、複雑な企業間取引の中から、対象製品の供給に関わる上流の取引経路を抽出します。MRI は本技術を活用し、平時のサプライチェーンリスクの把握や有事の影響評価を支援することで、企業のサプライチェーンのレジリエンス（強靭性）向上に貢献します。

1. 背景

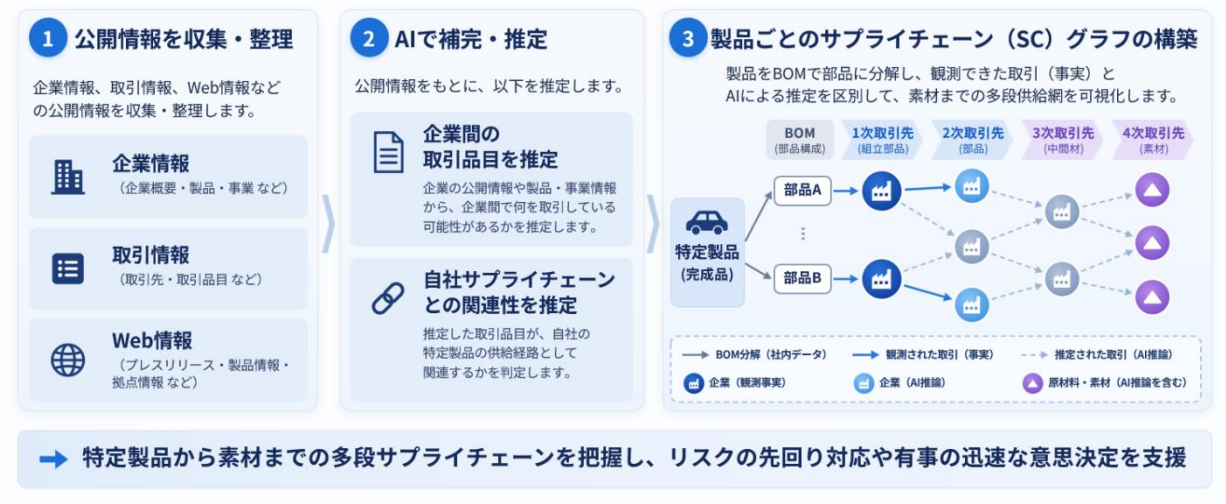
地政学リスクの高まりや自然災害の激甚化などにより、事業環境の不確実性は以前にも増して大きくなっています。こうしたリスクはサプライチェーンを通じて企業の調達や生産に影響を及ぼすため、サプライチェーンのレジリエンス（強靭性）向上は重要な経営課題となっています。
しかし、供給網は通常、何段階にも及ぶため、多くの企業では 1 次取引先は把握していても、その先にある取引関係や供給品目までは捉えられていないのが現状です。また、企業間の取引関係が分かっても、自社の特定製品に関わる取引先、取引先の拠点、原材料などを確認することは容易ではありません。こうした状況では、供給途絶などのリスクを平時に十分想定することができず、有事の際にも影響範囲の特定や対応に時間を要するおそれがあります。そのため、企業間の取引関係に加え、特定製品に関わる上流の供給経路を把握する仕組みが求められています。
そこで MRI は、企業間の取引品目と対象製品との関連性に着目し、2 次取引先以降の供給関係を製品単位で推定・可視化する技術の開発・実証を行いました。

2. 概要・特徴

本技術は、以下の 3 つのステップで、対象製品ごとに 2 次取引先以降の供給網を推定・可視化します（図表 1）。
①公開情報の収集・整理
②AI で品目や関連性を補完・推定
③製品ごとのサプライチェーングラフの構築

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.

図表 1　AI を活用したサプライチェーン推定技術の全体像



三菱総合研究所作成

(1)本技術の特徴

■ 企業間の取引品目を AI で推定

公開情報や企業間取引データなどを AI で分析し、企業間でどのような部品や素材などが取引されているかを推定します。企業間のつながりだけでなく、取引される品目まで推定し、供給網を品目単位でたどることができます。

■ 対象製品との関連性を評価し、上流の供給経路を抽出

推定した取引品目と対象製品との関連性を AI で評価し、その製品の供給に関わる可能性がある取引経路を抽出します。これにより、複雑に広がる企業間取引の中から、特定製品に関係する部品・素材などの上流の供給経路を絞り込みます。

■ 確認できた情報と推定を区別し、根拠を確認できる形で可視化

企業・拠点・部品・素材などの情報とそれらの関係をサプライチェーングラフとして整理・可視化します。公開情報や外部データから確認できた情報と AI による推定を区別して管理し、推定の根拠となった情報を追跡できる仕組みを備えています。

(2)本技術の活用によって期待される効果

■ 上流の供給構造を把握し、重点確認先を絞り込む

自社で把握している取引情報を補完でき、重要製品・部材に関係する上流の供給先や依存関係を把握できます。これにより、重点的に確認すべき取引先を絞り込みやすくなります。

■ 有事の影響評価の対象を迅速に絞り込み、初動対応を効率化する

災害や規制変更などの外部事象が発生した際、影響を受ける可能性のある取引先を AI が迅速に絞り込み、部材調達に生じ得る影響を評価できるようになることが期待されます。

■ 平時から供給網の構造的なリスクを把握し、事前の対策立案につなげる

重要部材の調達先の集中や共通の上流供給先への依存など、供給網の構造に起因するリスクを平時から把握しやすくなり、事前の対策立案につなげられます（図表 2）。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.

図表 2　構造的リスク把握のイメージ



注：開発中の画面。仕様は変更となる場合があります。

三菱総合研究所作成

3. 今後の展開

MRI は 2026 年 7 月、企業の戦略決定を支援するための情報基盤「MRI AI インテリジェンス基盤」に、サプライチェーン全体の可視化を支援するコンサルティングサービスと、影響評価や対策案の提示を自動で行う AI エージェント機能を追加することを発表しました。MRI は今後、本技術もこれらと連携させ、サプライチェーンリスクの把握から事業への影響評価、対応策の検討までを一貫して支援するサービスの実現を目指します。また、特定製品や重要部材を対象にした概念実証（PoC）の相談にも対応します。

関連情報

ニュースリリース

「三菱総合研究所、AI エージェントの活用でサプライチェーンの影響評価を開始」（ニュースリリース、2026 年 7 月 21 日）

サービス紹介

「AI インテリジェンスによるサプライチェーンリスク評価」

本件に関するお問い合わせ先

株式会社三菱総合研究所
〒100-8141　東京都千代田区永田町二丁目 10 番 3 号

【本技術に関するお問い合わせ】
AI コンサルティング本部 「MRI AI インテリジェンス基盤」事務局
久光、塚本
メール：ai-intel@ml.mri.co.jp

【報道機関からのお問い合わせ】
広報部
メール：media@mri.co.jp

本資料は、経済産業記者会、経済産業省ペンクラブおよび当社にてコンタクトのある記者の方々にもご案内しています。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.